

パーキンソン病および脊髄小脳変性症に対する短期集中リハビリテーション入院の臨床効果および栄養状態に関する後ろ向き観察研究について

青森県立中央病院 脳神経内科では、パーキンソン病および脊髄小脳変性症に対して実施している短期集中リハビリテーション入院の臨床効果および関連因子について検討する研究を実施しています。

パーキンソン病および脊髄小脳変性症は進行性の神経変性疾患であり、歩行障害やバランス障害などの運動症状に加え、発話障害や嚥下障害などの症状がみられることがあります。当院では2019年より、これらの症状に対して運動療法および言語療法を含む短期集中リハビリテーション入院を実施してきました。また、パーキンソン病では低栄養や体重減少が機能低下に影響する可能性が指摘されており、栄養状態の把握も重要と考えられています。

本研究では、2019年6月から2026年2月までに当院で短期集中リハビリテーション入院を受けられたパーキンソン病および脊髄小脳変性症の患者さんを対象に、診療の過程で得られた情報を用いて、入退院前後の運動機能、日常生活動作、言語機能の変化を検討します。さらに、パーキンソン病患者さんについては、BMIや体重変化、体組成、GLIM基準による低栄養評価、食生活習慣などを含め、栄養状態と機能改善との関連についても検討します。

本研究で使用する情報は、年齢、性別、診断名、罹病期間、リハビリテーション評価結果（バランス能力、歩行能力、筋力、ADL、言語機能など）、栄養関連情報（体重、BMI、体組成、食生活習慣等）などです。氏名や生年月日など、個人が特定される情報は研究データには含まれません。本研究では、新たな検査や追加の治療を行うことはなく、通常診療の範囲内で得られた診療録情報を後方視的に解析する観察研究です。本研究は、関係する倫理審査委員会の承認を受けて実施されています。

本研究は、情報公開（オプトアウト）方式で実施いたします。研究への参加を希望されない場合は、下記のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも、診療内容や今後の治療に不利益が生じることは一切ありません。

研究成果は、個人が特定されない形で学会発表や医学論文等にて公表し、今後の神経変性疾患に対するリハビリテーション医療および包括的診療の向上に役立てる予定です。本研究に関してご不明な点やご質問がございましたら、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

主研究者・研究責任者
青森県立中央病院 脳神経内科 上野達哉

電話番号 017-726-8111